



躍進目覚ましい中国のフィンテックサービス

国際社会経済研究所 (NEC グループ) 主任研究員

大平 公一郎



P2PPで13兆円

融資の分野では、個人や企業がインターネット上で直接にお金を貸し借りするピア・ツー・ピア (P2P) レンディングが注目される。参加するプラットフォーム事業者の数は、詐欺行為を働く業者に対応すべく規制が導入されたことで落ち着きを見せている

手と借り手が物理的な制約なく結びつき、比較的到低コストで資金のやりとりが可能なため、既存の金融機関が満たせていない小規模だが数多くの資金需要を受け止める重要な金融インフラになりつつある。

企業に少額の資金を貸し出すマイクロクレジットも動きだしている。代表的な企業には、アリババ系列のMYBank、テンセント系列のWeBankなどがあり、グループ企業が持つイーコマースの取引履歴や決済口座の利用履歴などを分析し、与信判断に利用しているとみられる。

信用創造に変革

事業者が個人や中小企業に少額の資金を貸し出すマイクロクレジットも動きだしている。代表的な企業には、アリババ系列のMYBank、テンセント系列のWeBankなどがあり、グループ企業が持つイーコマースの取引履歴や決済口座の利用履歴などを分析し、与信判断に利用しているとみられる。

インターネット金融の普及には、スマートフォンが大きな役割を包み、寄付を行う騰訊公衆の信用創造に大きな変革をもたらしている。

スマホが金融インフラに

インターネット金融の普及には、スマートフォンが大きな役割を果たしている (財布通アプリの画面)



いった機能が、スマートフォンアプリ上で一体的に提供されている。同社のSNS「ウィチャット」の利用者は16年末で8億8900万人だが、同じアプリ上でさまざまな金融サービスを簡単に提供する仕組みが、この膨大な数の利用者に向けて既に整備されていることとなる。

単独の企業がさまざまな金融サービスを提供することは難しいが、この膨大な数の利用者に向けて既に整備されていることとなる。

一体的に提供

こうしたスマートフォン活用の流れは中国にとどまらず、特に支店やATMといった既存金融機関のインフラが整っていない新興国ではスマートフォンが主要な金融サービスを提供する手段になっていく。